

令和6年度 第2回帯広市緑化審議会 議事録（概要）

- 1 日 時 令和7年1月21日（火）10：00～11：30
- 2 場 所 帯広市役所 10階第6会議室
- 3 出席委員 橋本委員長、天内委員、磯野委員、小原委員、鎌田委員、嶋宮委員、駒井委員
合歓垣委員、清水委員、橋本委員、長谷川委員、藤平委員、森委員 12名
（欠席：新津委員、廣瀬委員、蔦井委員 3名）
- 4 事務局 篠原部長、高橋参事、広沢土木室長、岡田環境室長、鈴木道路維持課長、
黒野みどりの課長、大橋みどりの課長補佐、吉澤公園係長、
上川原みどりと花の係長、盛主任補、上野主任補、畑中係員

5 議 事

（1）報告事項

- ・帯広市緑化審議会の概要について
- ・帯広市緑のまちづくり条例施行規則一部改正について

（2）協議事項

- ・帯広の森について
- ・緑ヶ丘公園エリアビジョン（原案）について

6 議事概要

（1）報告事項

- ・「帯広市緑化審議会の概要について」
（事務局から内容説明、質疑なし）
- ・「帯広市緑のまちづくり条例施行規則一部改正について」
（事務局から内容説明、質疑なし）

（2）協議事項

- ・「帯広の森について」

委 員：「帯広の森に関するアンケート」の結果は貴重なものだと思う。帯広の森で活動している感覚としては、ウォーキングなどをされる方が多いが、利用目的の回答では「運動公園以外での運動」に入っているのか。

事務局：「運動公園内での運動」が体育施設での運動と推測すると、「散策・休憩」の128名や「運動公園以外での運動」の38名の中にウォーキングなどが含まれていると考えている。

委員：アンケート回答者の4割が10代ということで、運動施設の利用者が非常に多いんだろうと思う。実際の人口構成と異なるが、この影響はどのように評価されているのか。

事務局：体育施設を利用する層の回答が一番多かったのではないかと推測している。アンケート以外にもシンポジウムのワークショップなど様々な機会幅広い世代から意見を頂いており、それらの意見も参考としながら今後の利活用の方向性についてまとめていきたい。

委員：帯広の森の好きなところを聞いている部分で、森林利用者よりも体育施設利用者の意見が多いのではないかと印象を持った。アンケートを取った場所がどこなのか、取った場所の割合によると思うが、森林という観点からどこまで意見を反映できるか気になる。例えば、施設利用者はインフラ整備を求めたとすると、森林利用者と意見の相違がある可能性も考えられると思う。

事務局：今回の帯広の森のアンケートについて、チラシは帯広の森・はぐくむや体育施設のほか、図書館やとかちプラザなどの公共施設、中学校や高校に配布をしたほか、帯広市ホームページや帯広市公式LINEで周知を行い、帯広市民に限らず幅広くアンケートを実施した。回答は全てオンラインでの回答であった。

委員：帯広の森50周年記念事業で制作している絵本は、市内小中学校には配布予定か。

事務局：漫画冊子と写真絵本の両方とも市内小中学校に配布する予定。

委員：帯広の森のPRに課題があるという説明があったが、私は帯広市の公式LINEを便利に使っている。公式LINEをうまく活用すると、帯広の森のイベントPRに役立てられるのではないかな。

・「緑ヶ丘公園エリアビジョン（原案）について」

委員：少年院跡地を開発する場合、エリアの利便性向上が非常に重要であり、現在の公園東通は交通量も多いため、この解消が必要だと思う。今後、少年院跡地周辺の道路がどのようなのかを知っておかないと、色々なことが考えられないのではと思うが、道路について市としての考えはあるか。

事務局：公園東通は、現在のところ具体的な整備の検討は進んでいないが、今後少年院跡地の利活用を考えていく中で道路のことも検討していかなければならないと考えている。

委員：少年院跡地を検討する上では、近隣住民のことも考えていかないといけない大事な部分と思

っている。また、興味を持ち、今後の動向を早く知りたいという気持ちがある方がいるとも感じている。子供達の活動で児童会館を利用する機会が多いが、緑ヶ丘公園は市内唯一の屋外での学びと屋内での学びを両方兼ね備えている場所だと思う。児童会館の施設老朽化は実感しており、こういった公園の中心となる施設を整備してもらえると緑ヶ丘公園での子供達の活動のあり方も変わってくるのではないかなと思う。

委員：全国で様々な再開発例があるが、これまでの常識に捕らわれ失敗する事例も発生していると聞く。想定外の建築費上昇により、賃料も上昇するとビジネスが成り立たず、テナントが入らないという事態も想定される。今までの感覚では物事を考えないほうがいいという印象を受けている。

委員：今後のスケジュールを教えてください。

事務局：緑ヶ丘公園の魅力向上の取組みは、各主体が集まった協議の場を設け、検討を進めながら具体的な取組みを来年度以降実施していきたいと考えている。少年院跡地は、おそらく来年度以降法務省から財務省に所管替えされた後に処分方針が検討されていく予定であり、その中で帯広市に対しての意向確認などがあると推測している状況。

委員：保護者としての立場や自分の親の世代と比べ、今の子供たちは、全く考え方が異なる。大人の意見だけで議論を進めると本当に子供たちのニーズと合っていない施設や公園の利用方法が出来てしまう懸念がある。子供たちや高校生などの意見も聞いて欲しいと思う。

事務局：同様の意見はこれまでも寄せられており、多くはないが高校生や学校関係者の意見も伺っている。今後も継続的に実施していきたい。

委員：緑ヶ丘地区として考えると、グリーンプラザの老朽化や過去には小学校の統廃合という議論もあり、緑ヶ丘地区一体としての開発を考えなければいけないと話もあったほか、グリーンプラザを何かに利用すると思っても交通の利便性を考えると駅周辺の方が使いやすいなど交通網を踏まえた考えも必要ではないか。また、先ほどの意見の通り、これからの若い人たちがどのように利用するか、我々の固定概念で決めるよりもいいのではないかなと感じる。

委員：帯広に屋内の遊び場がないということを子育て世代の方々は思ってきている。希望としては屋内遊びの場を作っていただきたい。屋内も充実し、屋外にも施設があるようなものが、緑ヶ丘公園とも連携させてできたら市外からも人が呼ぶことができるのではないかな。

委員：自然とか緑とか言ったときに私たちの手ではどうしようもない部分があり、それが魅力でもあると思う。どうしてもトイレが欲しいベンチが欲しいとなりがちだが、自然を生かしながら両立させるということは困難。50年先、100年先の自然の中に人のいる姿というのを理屈

ではなくて絵としてイメージできるようなことが大事だと思う。